

競馬の勝因研究

A Study of Winning Factors about Horserace

1K06A110

指導教員 主査 岡浩一朗先生

佐々木 景一

副査 堀野博幸先生

【緒言】

JRA（日本中央競馬会）が主催する中央競馬は2008年度に年間約2.8兆円の馬券収入がある。競馬がこれだけの金額を動かしているのは決してギャンブル要素だけではない。スポーツ要素や文化的な要素も競馬の大きな魅力である。ほかのスポーツに対する楽しみ方と競馬に対するもので決定的に違うものは馬券の存在ではあるが、馬券もギャンブル的な意味合いだけではない。馬券を買うことによって、勝利の喜びや敗れた悔しさを当事者とともに味わうことができるのだ。競馬をさらに楽しむためには、3着以内の馬券圏内馬を正確に予想することが必要である。そこで、出走している馬がレースに勝利する要因として、勝ち馬にどの成績が影響して勝っているのかを調べた。

【方法】

2009年天皇賞（秋）、マイルチャンピオンシップを対象レースとした。過去4年分の東京競馬場2000mの勝ち馬59頭および京都競馬場1600mの勝ち馬60頭の右回り成績、左回り成績、競馬場の成績、距離の成績と、過去4年分の日皇賞（秋）の出走馬67頭およびマイルチャンピオンシップの出走馬69頭の右回り成績、左回り成績、競馬場の成績、距離の成績、GIの成績、重賞競争の成績から3変量を選び、主成分分析と因子分析を行う。

【結果】

天皇賞（秋）

分析の結果、出走馬18頭中8頭の馬に関連性を見ることができた。その中で複数の分析に出てきた6番、15番と分析に出てきた中でも特に能力の高い得点が出た7番の3頭がレースで勝つ確率の高い馬であると予想した。実際のレースでは7番は3着以内に入ったが、6番、15番は入らなかった。

マイルチャンピオンシップ

分析の結果、出走馬16頭中8頭の馬に関連性を見ることができた。複数の分析に出てきた10, 11, 12, 17番の4頭がレースで勝つ確率の高い馬であると予想した。実際のレースでは4頭は3着以内に入らなかった。

【考察】

本研究の結果の馬は予想した7頭中1頭のみが3着内に入る結果であった。先行研究に比べると正確性が低くなった。これは先行研究の対象レースの有馬記念と本研究の対象レースである天皇賞（秋）・マイルチャンピオンシップの特徴の違いが影響していると考えられる。有馬記念は2500mと距離が長く、出走する馬がステイヤー（長距離を得意とする馬）に限られるということ。さらに中山競馬場は直線が短く、最後に急坂があり、得意、不得意の出やすいコースである。これらのことから、有馬記念が研究方法に適していたレースであるといえる。それに対し、本研究の対象レースは出走馬の幅が広いことや直線が長く、力出しやすいコースであり、比較的フラットな条件のレースであったために3着入選馬の特定が難しかったと考える。

しかし、天皇賞（秋）の1着馬以外の入着馬は何らかの分析に出ていたことを考えると、勝因要素を変えることや増やすことによって特定できた可能性があり、レースによって勝因要素を変化させる必要があると考える。